

くろかわどしゅうらくかつどうそしき

黒川渡集落活動組織（松本市）

・組織の活動面積 A= 10.75 ha	組織形態	農地維持 <input checked="" type="checkbox"/>	資源向上(共同) <input type="checkbox"/>	資源向上(長寿命化) <input type="checkbox"/>
・組織の構成員数 約 26 人	取組開始年度	平成26年～	—	—

構成員	農家
-----	----

組織の概要

- ・松本市西部の山間部に位置し、超過疎化が急速に進行している地域です。
 - ・農業従事者の平均年齢が75歳を越え、年々高齢や死亡により担い手が減り、農地を維持するのが困難な状況です。担い手を確保し農地を守ることが急務となっており、「荒廃農地を絶対に出さない」を合言葉に互いに協力し合いながら日々奮闘しています。
- 多面的機能支払では中山間地域等直接支払事業との連携により、個人農地の畦畔・法面の草刈りに資金面で援助し、側面から担い手の農業継続のための支援を行なっています。

楽しい農業が生きがいに、そして明るい農村に

中山間地域の農業は、有害鳥獣との戦いです。中山間地域等直接支払事業の交付金を活用して15年ほど前に電気柵を設置しましたが、サルによる被害が深刻になりました。平成24年に、有害鳥獣対策協議会を設立し、サル、イノシシ対策の切り札となる防護柵の設置と緩衝帯を整備しました。これにより、収穫間近のトウモロコシをサルにやられることもなくなり、有害鳥獣に対するストレスを感じることなく農作業に励むことができる環境が整いました。以降、防護柵、緩衝帯の保守を活動のひとつの柱に据え、草刈りや補修などを毎年実施しています。



H24年に設置した防護柵&緩衝帯



農地の多面的機能としての景観事業は、楽しく農業をするための環境整備として欠かせません。山へ来ると5月にはスイセンと山つつじが迎えてくれます。

防護柵補修作業



水路整備作業



山つつじ植樹作業



水路草刈り作業

